

研究用試薬

2018年4月2日改訂

この度は弊社製品をご購入いただきましてありがとうございます。ご使用に際してはキットに同梱された取扱説明書に従つて測定を実施してください。なお、操作法は弊社 Web サイト[良い結果を出すためのポイント（動画）]、並びに[Q&A]をご参照ください。また、本キットを初めてご使用になられる場合は後述の「◆ご使用前にご確認頂きたい技術上のヒント及び注意事項」をご確認の上ご使用ください。

『 レビス[®] C - ペプチドーラット (U タイプ) 』取扱説明書

1. イントロダクション

インスリンは細胞内で 1 本鎖のプロインスリンの形で合成された後、S-S 結合が形成され、酵素分解による活性化がおこって C-ペプチドとインスリンが分離します。インスリン部分のアミノ酸配列はマウス、ラット共通ですが、C-ペプチドの部分は多少違います。マウス C-ペプチド 1 はアミノ酸 29 個、2 は 31 個の単鎖ペプチドです。C-ペプチドはプロインスリンから分離したあと、インスリンとともに分泌されます。

C-ペプチドは長い間生理作用がなく、インスリン生合成の過程において A 鎖と B 鎖が正しい形で折りたたまれ、正しい組み合わせの S-S 結合ができるようにする作用のほかには生理作用は特に無いと考えられていましたが、近年の研究の積み重ねにより様々な生理作用のあることが明らかになってきました。まず C-ペプチドは 10^{-9} M 程度で内皮細胞、腎尿細管細胞や纖維芽細胞の表面の恐らく G タンパクにカップルした受容体に結合し、カルシウムイオン依存性の細胞内シグナルを活性化すること、 $\text{Na}^+ \text{-K}^+$ -ATPase を活性化し、内皮細胞の NO 合成を促進すること、受容体との結合には立体的特異性があり、インスリン、プロインスリン、IGF-I、-II、NPY との交差性がないことが示されています。また C-ペプチドを欠いている I 型糖尿病患者に C-ペプチドを投与することにより、骨格筋と皮膚の血流が増強され、腎糸球体の hyperfiltration を低下させ、尿中へのアルブミンの排泄を抑制し、神経機能を改善するが健常人には作用が現われないことが示されています。このことから I 型糖尿病患者にはインスリンのみでなく C-ペプチドの同時投与が合併症の阻止に有用であることが示唆されます。

C-ペプチドの C 末端部のペントペプチド(27-31)が受容体との結合に重要で、この部分の欠如した Des(27-31) C-ペプチド はその作用を失うとされています。このペントペプチドは C-ペプチドと受容体との結合を完全に replace することができ、 $\text{Na}^+ \text{-K}^+$ -ATPase を活性化します。Des(27-31) C-ペプチドの存在量は新生仔ラットでは C-ペプチドの約 37 %、成熟ラットでは 8.5 % を占めるという報告があります。C-ペプチドの血中における寿命はインスリンよりも数倍長いという特徴を持ちます。そこで、C-ペプチドの血中レベル測定は臨床的にはインスリン合成、分泌機能を観察するのに用いられます。また尿中に多量に排泄され、血中のレベルとよく相関することから、尿を検体として測定することもできます。また、インビトロで培養されたランゲルハンス島（膵島）からのインスリン分泌の指標として C-ペプチド測定は有用です。なぜなら、培養液にはインスリンが添加されることが多いので、培養後培養液中のインスリンを測定すると、分泌されたインスリンと添加されたインスリンの区別がつかなくなってしまい、培養開始時の量を差し引かなければなりません。その場合、分泌されたインスリン量が少ないと測定誤差の影響が大きくなり正確な判定ができなくなります。この時、C-ペプチドを測定してやれば、インスリンと等モルで分泌されますから、分泌されたインスリンを正確に判定できるというわけです。

当社のキットは C-ペプチド 1、2 の共通部分を認識しますので、トータルの C-ペプチドが測定されます。

本キットはラット C-ペプチドを定量的に測定するためのサンドイッチ酵素免疫測定法です。本キットは研究のみにご使用ください。

◆ 製品の特長

- 全反応時間は 5 時間です。
- ラット血清または血漿中の C-ペプチドを測定します。
- 微量な検体（標準操作法は 10 μL ）で測定可能です。
- 1 キットは 96 ウエルです。
- 標準品はラット由来のものです。
- 全ての試薬は溶液タイプです。

2. 測定原理

本キットは標準品、希釈検体が抗 C-ペプチド抗体固相化マイクロプレートウェル中でインキュベートされます。2 時間のインキュベーションと洗浄後、ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体を加え捕捉された C-ペプチドとともに 2 時間インキュベートします。洗浄後、ペルオキシダーゼ・アビジン結合物を加え、30 分インキュベートします。再度の洗浄後、ウェルに残ったペルオキシダーゼを発色液(TMB)と反応させます。反応は酸性の溶液の添加で停止され、反応の結果生じた黄色の産物が 450 nm (副波長 620 nm) で比色測定されます。吸光度は C-ペプチド濃度にほぼ比例します。標準品濃度に対して吸光度をプロットし標準曲線を作成し、この標準曲線から未知検体中の濃度が決定されます。

レビス® C-ペプチド-ラット（U タイプ）(AKRCP-030)

3.キットの保存と使用期限

キットは2 ℃～8 ℃で保存してください（凍結厳禁）。この保存条件下でキットは製造月から6カ月（外箱のラベルに記載）までは安定です。有効期限の過ぎた試薬は使用しないでください。開封した各試薬につきましては、保管状態により影響を受ける可能性がありますので早めのご使用を推奨します。

4.キット以外に必要な器具 □チェックリスト

□精製水（蒸留水） □標準溶液希釈用試験管 □洗浄液希釈用ガラス器具（メスシリンダー・ビーカー・瓶） □チップ交換型ピペット（使い捨てチップで10µL～50 µLを正確にピペットティングできるもの、及び100µL～300 µLを正確にピペットティングできるもの） □連続分注ピペット（例 Eppendorf の multipette plus）、50 µLを連続分注できるもの □ペーパータオル等の吸水性のあるもの（洗浄後にプレートに残った液を取り除く） □攪拌器（Vortex タイプ） □マイクロプレート振とう器（約 600 rpm～1200 rpm）
□96 ウエルプレート用洗浄機（あれば好ましい）または噴射ピン □96 ウエルプレートリーダー（450 ± 10 nm 、620 nm : 600 nm～650 nm） □データ計算用ソフトウェア

5.構成品

構成品	状態	容量
(A) 抗体固相化 96 ウエルプレート	洗浄後使用	96 wells(8×12)/1枚
(B) 標準 C - ペプチド溶液（ラット）(6000 pg/mL)	希釈後使用	500 µL/1本
(C) 緩衝液	そのまま使用	60 mL/1本
(D) ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体	希釈後使用	100 µL/1本
(E) ペルオキシダーゼ・アビジン結合物	希釈後使用	100 µL/1本
(F) 発色液(TMB)	そのまま使用	12 mL/1本
(H) 反応停止液(1 M H ₂ SO ₄) ※取扱注意	そのまま使用	12 mL/1本
(I) 濃縮洗浄液(10×)	希釈後使用	100 mL/1本
プレートシール		4 枚
取扱説明書		1 部

6.試薬の調製

*キットの試薬は使用前に必ず室温(20 ℃～25 ℃)に戻してください（2時間位が目安です）。

*5.で「そのまま使用」とある試薬は室温化後そのままの状態で使用できます。「希釈後使用」とあるものについては下記の要領で調製してください。

*測定に必要な分だけ試薬を調製してください（ご不明な際にはお問い合わせください）。

【濃縮された試薬類】

[(B)標準 C-ペプチド溶液（ラット）(6000 pg/mL)]；標準曲線作成用

(B)標準 C-ペプチド溶液（ラット）(6000 pg/mL)（原液）と(C)緩衝液を使って標準溶液を調製してください。
下記は一例です。

標準溶液の容量	緩衝液	濃度(pg/mL)
標準溶液原液 150 µL	150 µL	3000
3000 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	1500
1500 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	750
750 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	375
375 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	188
188 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	93.8
93.8 pg/mL 溶液 150 µL	150 µL	46.9
0(Blank)	150 µL	0

[(D)ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体]

100 µLを充分分取できる量をご提供しています。濃縮液を(C)緩衝液で**100倍**に希釈してください。

[(E)ペルオキシダーゼ・アビジン結合物]

レビス® C-ペプチド-ラット（U タイプ）(AKRCP-030)

100 µL を充分分取できる量をご提供しています。濃縮液を(C)緩衝液で **100 倍**に希釈してください。

【(I)濃縮洗浄液(10×)】

濃縮洗浄液(10×)を室温化された精製水（蒸留水）で **10 倍**に希釈してください。

例：100 mL の濃縮洗浄液(10×)+900 mL の精製水（蒸留水）(96 ウエル全てを使用する場合)

【試薬の安定性と保存方法】

(A)抗体固相化 96 ウエルプレート

未使用（冷蔵状態を保った状態でシールを剥がしていない）の抗体固相化ストリップは同梱のジップシールパックに戻し、そのまま 2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。

(B)標準 C-ペプチド溶液（ラット）(6000 pg/mL)

キットを分割して使用する際は使用する直前に冷蔵庫より取り出し希釈調製し、残りの原液は室温に戻さないで直ちに蓋をしっかりと閉め、2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。

希釈した各標準溶液は直ちに使用し、保存はしないでください。

(C)緩衝液及び(F)発色液(TMB)

一部の溶液を使用する際は必要量より少し多めの量を別の容器に移し、残りは室温に戻さないで直ちに蓋をしっかりと閉め、2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。

(D)ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体及び(E)ペルオキシダーゼ・アビジン結合物

キットを分割して使用する際は希釈時に冷蔵庫より取り出し希釈調製し、残りの原液は室温に戻さないで直ちに蓋をしっかりと閉め、2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。使用残りの希釈済み液は廃棄してください。

(H)反応停止液(1 M H₂SO₄)

使用残りを保存する場合は、蓋をしっかりと閉め、2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。

(I)濃縮洗浄液(10×)

濃縮洗浄液(10×)を保存する場合は、蓋をしっかりと閉め、2 ℃～8 ℃で保存してください。有効期限内安定性を保ちます。使用残りの希釈済み洗浄液は廃棄してください。

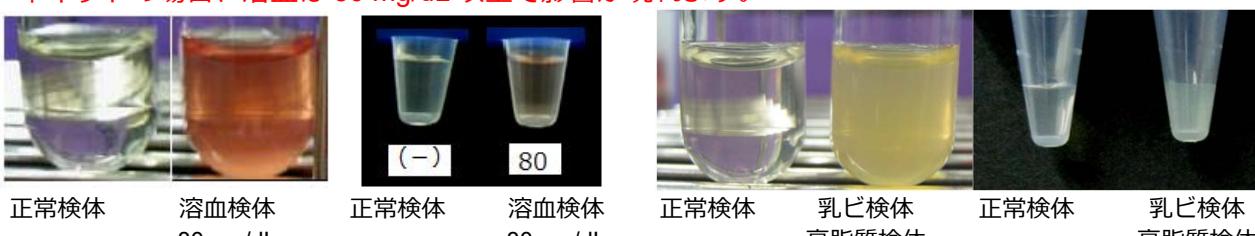
7. 検体の調製

本キットはラット血清または血漿中の C-ペプチドを測定します。

- 検体は定法にしたがって採取しすぐに測定するか、-35 ℃以下で凍結保存してください。凍結した検体は測定する直前に解凍し充分に攪拌してください。繰り返しの凍結融解は避けてください。正しい結果が得られない原因になります。
- pH が 6.5～7.5 の範囲であることを確認してください。
- 採血時の麻酔は測定値に影響を与える場合がありますのでご注意ください。エーテルは使用しないでください。
- 採血の際にヒト用の採血管をご使用になるのは避けてください。血清分離促進剤等の添加剤が測定系に影響を与える可能性が考えられます。
- 溶血した検体や高脂質検体は異常値の発生原因となりますので避けてください。

※血液成分の影響（高脂質・溶血等）を抑制する為に原検体中の脂質（乳ビ）・溶血が次項写真より高い場合は異常値発生の原因となる場合がありますので測定に使用しないでください。

本キットの場合、溶血は 80 mg/dL 以上で影響が現れます。



- 濁り及び不溶物のある検体は遠心分離等で除去後測定に用いてください。
- 妨害物質の影響が疑わしい検体は、同一検体において、異なる 2 ポイント以上の希釈率で希釈直線性を確認してください。
- 検体の希釈（本測定法では 5 倍）は、あらかじめ試験管等で行い測定ウエルに分注しても構いません。

【検体の安定性と保存方法】

検体を長期に保管する場合は、-35 ℃以下の凍結保管を推奨します。繰り返しの凍結融解は避けてください。また、検体の希釈は用時調製としてください。

8. 測定操作法

洗浄操作を始める前に次に分注する試薬を前もって用意してください。

抗体固相化プレートのシールは、プレートが充分に室温に戻ってから剥がしてください。

(1) あらかじめ調製した洗浄液を各ウェルに満たし、3 回洗浄(*①)します。その後、ペーパータオルなど

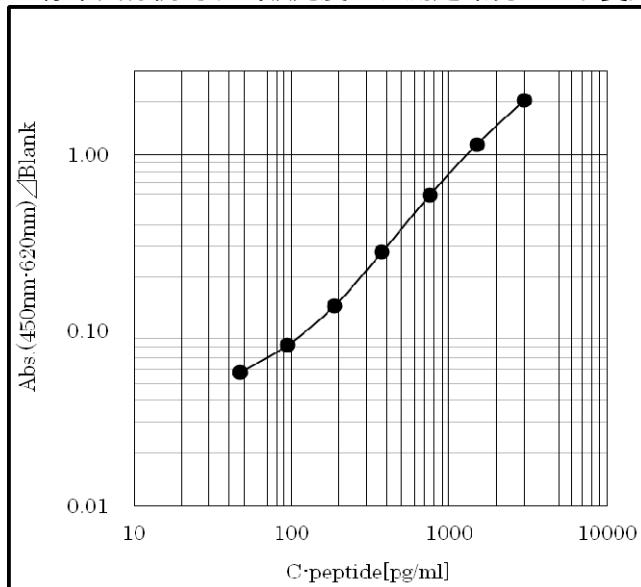
レビス® C-ペプチド-ラット (U タイプ) (AKRCP-030)

- の上でプレートを逆さにし、軽く叩きつけるようにしてウェルに残った液を取り除きます。
- (2) 検体測定ウェルに緩衝液を 40 μL ずつ分注し、さらに検体を 10 μL 添加します。
- (3) 標準品測定ウェルに各濃度の標準溶液を 50 μL ずつ分注します。
- (4) マイクロプレート振とう器などを用いて攪拌(*②)します。
- (5) プレートシールを貼り(*③)、室温(20 °C~25 °C)で 2 時間静置します。
- (6) 反応終了後、反応液を捨て洗浄液を各ウェルに満たし、3 回洗浄(*①)します。その後、ペーパータオルなどの上でプレートを逆さにし、軽く叩きつけるようにしてウェルに残った液を取り除きます。
- (7) 各ウェルにビオチン結合抗 C-ペプチド抗体を 50 μL ずつ分注します。マイクロプレート振とう器などを用いて攪拌(*②)します。
- (8) プレートシールを貼り(*③)、室温(20 °C~25 °C)で 2 時間静置します。
- (9) 反応終了後、反応液を捨て洗浄液を各ウェルに満たし 3 回洗浄(*①)します。その後、ペーパータオルなどの上でプレートを逆さにし、軽く叩きつけるようにしてウェルに残った液を取り除きます。
- (10) 各ウェルに、ペルオキシダーゼ・アビジン結合物を 50 μL ずつ分注します。マイクロプレート振とう器などを用いて攪拌(*②)します。
- (11) プレートシールを貼り(*③)、室温(20 °C~25 °C)で 30 分間静置します。
- (12) 反応終了後、反応液を捨て洗浄液を各ウェルに満たし 3 回洗浄(*①)します。その後、ペーパータオルなどの上でプレートを逆さにし、軽く叩きつけるようにしてウェルに残った液を取り除きます。
- (13) 各ウェルに発色液を 50 μL ずつ分注します。マイクロプレート振とう器などを用いて攪拌(*②)します。
- (14) プレートシールを貼り(*③)、室温(20 °C~25 °C)で 30 分間静置します。
- (15) 各ウェルに反応停止液を 50 μL ずつ分注し、発色反応を停止します。
- (16) 攪拌(*②)後マイクロプレート用分光光度計で 450 nm (副波長 620 nm) での吸光度を測定します。副波長は 600~650 nm の範囲で使用できます。
- (*①)、(*②)、(*③)測定手順概要 (6、7 ページ) をご参照ください。

9.計算

- (1)測定毎に標準曲線を作成します。両対数を使用し X 軸を標準溶液濃度(pg/mL)、Y 軸を吸光度の標準曲線グラフを作成してください。標準曲線は弊社 Web サイト「技術情報」「ELISA の標準曲線」をご参照ください。
- (2)標準曲線より、検体の吸光度に対応する濃度(pg/mL)を読み取ります。読み取った濃度に検体希釈率（標準操作法では 5 倍）を乗じ測定値とします。
- * 検体の吸光度が標準曲線吸光度より外れた場合は(C)緩衝液にて適当倍率に調製し再度測定を実施してください。
- * 演算処理では、3 次多項式または 4 または 5 パラメーターの使用をお薦め致します。
- * ラットの臨床所見は臨床症状や他の検査結果などを総合的に判断して行う事が必要です。

右のグラフは標準曲線例です（吸光度は、測定環境により変動します）。



* プレートリーダーは SUNRISE RAINBOW(TECAN)を使用

10.キットの性能

●測定範囲

46.9 pg/mL~3000 pg/mL の範囲で測定できます。

(5 倍希釈時の実効測定範囲は 234.5 pg/mL~15 000 pg/mL)

●特異性

この ELISA 系で使用されている抗体はラット C-ペプチドに対して特異的です。関連物質を本キットで測定しました。ラット C-ペプチド 1、2 を 100 % としますと、マウス C-ペプチドとは 92 %、ヒト C-ペプ

レビス® C-ペプチド-ラット（U タイプ）(AKRCP-030)

- チドとは 90 %ですが、ラットインスリン、プロインスリンと反応しません（3000 pg/mL 時において）。
- 精度試験（アッセイ内変動）（8重測定、2検体） 平均 C.V. 値は 10 %未満
 - 再現性試験（アッセイ間変動）（4重測定、3検体、4日間） 平均 C.V. 値は 10 %未満
 - 添加回収試験
2 血清検体に異なる 3 濃度の C-ペプチドを添加し測定した結果、回収率は 94.0 %から 104 %
 - 希釈直線性
2 血清検体を連続的に希釈用緩衝液で 3 段階希釈し測定した結果、直線回帰の R^2 は 1.0

11.トラブルシューティングと Q&A

- すべてのウェルでの反応が弱い
原因として考えられること
1)標準品や検体の入れ忘れ。
2)発色に関連する試薬溶液の入れ忘れ。
3)発色に関連する試薬溶液の取り違えや希釈調製不良。
4)酵素阻害剤の混入。
5)キット保管温度の影響（凍結した場合）。
6)プレートの過剰な洗浄。
7)発色液の温度が低かった。
- 最小標準溶液濃度(46.9 pg/mL)の OD 値よりブランク OD 値が高くなる。
原因として考えられること
洗浄が不適当、不完全であった。
(ペルオキシダーゼ・アビジン結合物と反応後の洗浄回数 3 回と同じ流速で 4 回～6 回に増やしてください。)
- 変動係数(CV)が大きい
原因として考えられること
1)洗浄が不適当、不完全であった。
2)標準品や管理血清、または検体の攪拌が不充分であった（凍結検体の攪拌は充分に行ってください）。
3)ピペットティング操作が一定ではなかった。
- Q-1：キットは分割して使用することができますか？
A-1：できます。プレートに貼られた透明シールをストリップの間にそってカッターなどで切り離してご使用ください。使用しないプレートはシールを貼った状態で冷蔵庫に保管してください。
- Q-2：プレートを取り出したらウェルの中に液体が入っていましたが何ですか？
A-2：出荷時には保存安定液が充填しております。
- 更に詳しいトラブルシューティングや Q&A は弊社ホームページをご覧ください。

12.参考文献

この製品を使用した参考文献は弊社 Web サイト「論文リスト」をご参照ください。

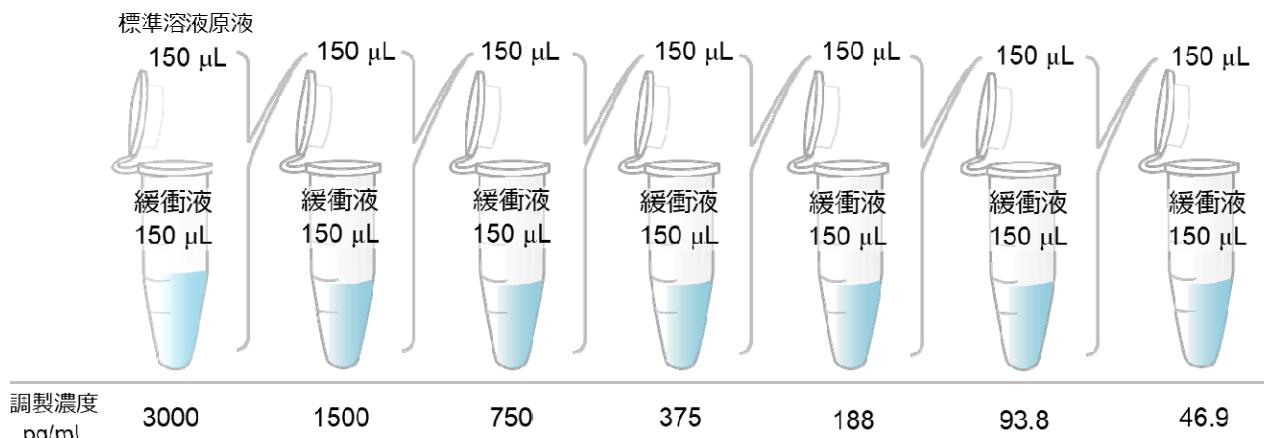
レビス® C-ペプチド-ラット (U タイプ) (AKRCP-030)

【測定手順概要とチェックリスト】

必ず取扱説明書を一読して検体条件、測定条件、測定方法を確認後測定操作を行ってください。

操作法は弊社 Web サイト[良い結果を出すためのポイント(動画)]並びに「Q&A」をご参照ください。

- ウエルプレート、試薬類を充分に室温(20 °C~25 °C)に戻してください。室温化には2時間位必要
- 濃縮洗浄液の希釈：室温化された精製水で、10倍に希釈してください。
- 標準溶液の希釈(例)：室温化された緩衝液で、希釈してください。



各操作注意事項並びに関連情報

<input type="checkbox"/> 抗体固相化 96 ウエルプレート			
<input type="checkbox"/> ↓洗浄 3 回 (洗浄液除去後、直ちに次の試薬分注)			* ①
<input type="checkbox"/> 希釈検体 (例えば緩衝液 40 μL と検体 10 μL) または標準溶液	50 μL		* ④
<input type="checkbox"/> ↓攪拌、室温(20 °C~25 °C)、2時間反応、静置			* ② * ③
<input type="checkbox"/> ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体の希釈。室温化された緩衝液で 100 倍に希釈してください。希釈溶液の調製は第一反応中に行う			
<input type="checkbox"/> ↓洗浄 3 回 洗浄液除去後、直ちに次の試薬分注			* ①
<input type="checkbox"/> ビオチン結合抗 C-ペプチド抗体	50 μL		
<input type="checkbox"/> ↓攪拌、室温(20 °C~25 °C)、2時間反応、静置			* ② * ③
<input type="checkbox"/> ペレオキシダーゼ・アビジン結合物の希釈。室温化された緩衝液で、100 倍に希釈してください。希釈溶液の調製は第二反応中に行う。			
<input type="checkbox"/> ↓洗浄 3 回 (洗浄液除去後、直ちに次の試薬分注)			* ①
<input type="checkbox"/> ペレオキシダーゼ・アビジン結合物	50 μL		
<input type="checkbox"/> ↓攪拌、室温(20 °C~25 °C)、30 分間反応、静置			* ② * ③
<input type="checkbox"/> ↓洗浄 3 回 (洗浄液除去後、直ちに発色液分注)			* ①
<input type="checkbox"/> 発色液(TMB) TMB が室温化されていることを確認 分注後、濃度により青色に変色	50 μL		
<input type="checkbox"/> ↓攪拌、室温(20 °C~25 °C)、30 分間反応、静置			* ② * ③
<input type="checkbox"/> 反応停止液(1 M H ₂ SO ₄) 強酸性につき取扱注意 分注後、濃度により黄褐色に変色	50 μL		
<input type="checkbox"/> ↓攪拌直ちに攪拌			* ②
<input type="checkbox"/> 吸光度測定 (主波長 450 nm、副波長 620 nm:600 nm~650 nm) 副波長はプレート裏面の汚れ等をキャンセルします			

(* ①)洗浄液をウェルに分注後、手のひらの上で 10 秒ほど軽く振り廻棄します。3 回連続洗浄後、ペーパータオル上にプレートを逆さにして叩き洗浄液を完全に除去します。洗浄液除去後の乾燥に注意して次の溶液を直ちに分注します。洗浄液をピペットで添加する際の液量目安は 300 μL／ウェルです。万一、最小標準

レビス® C-ペプチド-ラット（U タイプ）(AKRCP-030)

溶液濃度(46.9 pg/mL)の OD 値よりブランク OD 値が高くなる場合は解決方法の 1 つとして、ペルオキシダーゼ・アビジン結合物と反応後の洗浄回数 3 回と同じ流速で 4 回～6 回に増やしてください。プレート洗浄機ご使用の場合の圧力目安は 5 mL/分～25 mL/分（ノズルの径により異なります）です。第一反応後の初回の洗浄のみウェル間のコンタミに注意してください。「洗浄操作」の動画をご参照ください。

(*②)攪拌の目安は 600 rpm～1200 rpm-10 秒間、3 回。「攪拌操作」の動画をご参照ください。

(*③)攪拌終了後プレートシールを貼り静置してください。「反応条件」の動画をご参照ください。

プレートシールは保護紙を剥がして、粘着面をプレート側にして貼り付けてください。一度使用したプレートシールは再使用しないでください。

(*④)ピペットイングに関する注意事項は「ピペットイング」の動画をご参照ください。

ワークシート（例）

	Strip 1&2	Strip 3&4	Strip 5&6	Strip 7&8	Strip 9&10	Strip 11&12
A	3000 pg/mL	検体 1	検体 9	検体 17	検体 25	検体 33
B	1500 pg/mL	検体 2	検体 10	検体 18	検体 26	検体 34
C	750 pg/mL	検体 3	検体 11	検体 19	検体 27	検体 35
D	375 pg/mL	検体 4	検体 12	検体 20	検体 28	検体 36
E	188 pg/mL	検体 5	検体 13	検体 21	検体 29	検体 37
F	93.8 pg/mL	検体 6	検体 14	検体 22	検体 30	検体 38
G	46.9 pg/mL	検体 7	検体 15	検体 23	検体 31	検体 39
H	0(Blank)	検体 8	検体 16	検体 24	検体 32	検体 40

◆ご使用前にご確認頂きたい技術上のヒント及び注意事項

●ELISA 法は測定環境により影響を受けます。測定操作、静置反応場所の室温：20 ℃～25 ℃（実験台上またはインキュベータ内温度）を厳守してください。また、風速（エアコンの風も含む）：0.4 m/sec 以上、湿度 30 %未満の環境下での測定は避けてください。やむを得ず、測定操作を風速：0.4 m/sec 以上、湿度 30 %未満の環境下で実施する場合には、各ステップの静置反応時、プレートシールをすることに加え、下記のような方法をご検討ください。

例) インキュベータ内、発泡スチロール製箱内で静置反応させる等。測定室の環境条件により対策方法が異なる場合がありますので、詳細を弊社 Web サイトの動画「反応条件」でご確認ください。

●各ステップでの静置反応時には、ウェルの乾燥、異物の混入、温度の偏り、分注試薬の蒸発を防止する為、必ずプレートシールを貼ってください。

●検体と試薬に不純物が混ざらないように気をつけてください。1 ウェル／1 チップのご使用をお薦めします。

●発色液は 96 ウェルプレートに使用するまでは薄い黄色透明です。光を避けて保存してください。

●反応停止液は使用するまでは無色です。

●本キットは ELISA 法の研修を終了した方、または指導者の下でご使用ください。用手法操作で測定する際にはピペットイング操作の再現性が安定した方がご使用ください。

●準備並びに本キット操作中は手袋、眼鏡、保護用着衣を身につけてください。

●試薬類を皮膚に付けないでください。本キットの試薬が誤って、目、口、傷口、皮膚等に付着した場合は直ちに水道水で充分に洗い流す等の応急処置を行い、必要な場合は医師の手当てを受けてください。

●本キットを使用している場所では飲食や喫煙をしないでください。

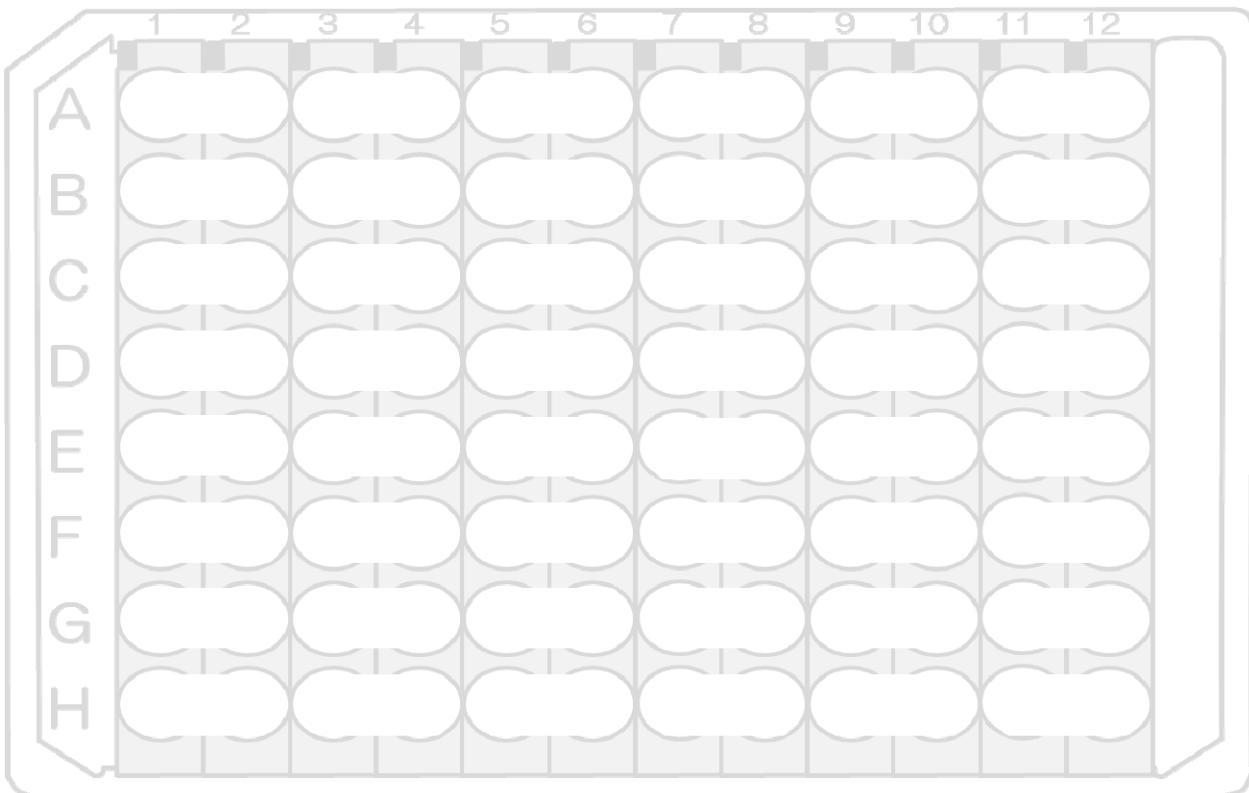
●試薬類は口でピペットイングしないでください。

●口ツト番号の違う試薬とは混ぜて使わないでください。

●検体は感染の危険性があるものとして充分注意して取り扱ってください。本キットは動物由来の成分を含んでいます。

●使用済みの検体、使用した消耗品等は 1 %ホルマリン、2 %グルタルアルデヒドまたは 0.1 %以上の次亜塩素酸ナトリウム溶液に 1 時間以上浸けてください。またはオートクレーブ滅菌処理して廃棄してください。使用した消耗品や未使用の薬品類は所属施設の規定並びに各地域の法令に従って廃棄してください。

レビス® C-ペプチド-ラット (U タイプ) (AKRCP-030)



【測定名】

【所属】

【測定者】

【測定日】

【ロット番号】

【有効期限】

【備考】

【製品名】

レビス® C-ペプチド-ラット (U タイプ)

【シバヤギコード】

AKRCP-030

【和光コード】 639-07271

【英語表記】

LBIS Rat C-peptide (U-type) ELISA Kit

(AKRCP-030, FUJIFILM Wako Shibayagi, Gunma, Japan)

【お問い合わせ先】

製造

富士フィルムワコーシバヤギ株式会社

〒377-0007 群馬県渋川市石原 1062-1 TEL.0279-25-0279 FAX.0279-23-0313

<E-mail>wksb-info@fujifilm.com <URL><http://www.shibayagi.co.jp>

販売

富士フィルム 和光純薬株式会社